

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年4月28日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士 令和5年度総会の開催

揖斐地区指導農業士会の通常総会が4月7日に開催された。会長から、昨年度はコロナの影響で十分な活動ができなかったが、今年度は様子を見ながら積極的に活動したいとの挨拶があり、会員も納得され、議案もすべて承認された。

総会後は交流会も開催され、会員や関係機関と地域や経営の状況などについて意見交換することができ、指導農業士としての役割や意識を確認することができた。

農業普及課も引き続き指導農業士と連携しながら活動を支援していく。



【総会の様子】

■野菜 野菜栽培講習会の開催

4月12日、JAいび川池田東支店において、池田東地区営農部会の野菜栽培講習会が開催され、野菜生産者や家庭菜園農家など18名の参加があった。

農業普及課は、「美味しい野菜栽培の土づくりについて」と題して、栽培の基本となる、堆肥の種類や投入時期や方法など、土づくりのポイントの講習を実施した。

今後も、定期的に営農部会学習会が開催され、小学校の野菜定植や、農場視察研修などが行われる予定である。



【研修会の様子】

■関係機関との連携 第1回営農連絡会議を開催

4月24日に第1回営農連絡会議を実施した。営農連絡会議は、揖斐川町、大野町、池田町、JAいび川、NOSA I岐阜、揖斐農林事務所で構成し、2ヶ月に1回、揖斐管内の農業状況について情報を共有している。

第1回は、令和5年度の事業計画及び施策について各機関から説明し、目標に向けた連携方法について検討を行った。各機関の担当者が把握できたことから、連携して現地活動に取り組み、次の営農連絡会議からはそれぞれの進捗などを報告し検討を行う予定である。



【会議の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■種子の安定生産 小麦種子ほ場審査を実施

4月13日に大野町の小麦（品種：イワイノダイチ）種子ほ場で、出穂期ほ場審査を生産者、JA等関係者と協力して行なった。今年は例年より生育が早く、概ね順調に生育していることを確認した。今後は、5月に成熟期ほ場審査を行い、収穫後、生産物審査（発芽試験）を経て、来年作の種子として県内に配布される予定である。

大野町採種圃生産組合により、小麦種子は約44haで生産されており、農業普及課では引き続き安定生産に向けた栽培管理を支援していく。



【ほ場審査の様子】

■茶 一番茶初摘み ～美濃いび茶の摘採開始～

本年は、春先の高温により、平年と比べ10日早く萌芽し、その後も寒暖の差が激しいものの気温は高く推移し、平年より早い摘採期を迎えた。美濃西部製茶組合では、4月20日に早生品種‘つゆひかり’の摘採を地域の先陣をきって開始した。適度な降雨もあり生葉の品質は良好で、順次‘やぶきた’の摘採が始まる。摘採された生葉は共同工場にて荒茶に加工し販売される。

農業普及課では、適期摘採に向けた情報提供を引き続き行い、良質な茶生産の支援を進めていく。



【初摘みの様子】

■柿 大野町かき振興会接木講習会の開催

4月12日に、大野町かき振興会の接木講習会が開催され、農業普及課は講師として出席し、資料に基づき実演を交えながら接木のポイント等を説明した。

質問も積極的にあり、様々な接木手法を実演し、生産者からは参考になったとの意見も多かった。

振興会では「太秋」や「麗玉」などへの品種更新を進めており、農業普及課ではその更新技術の普及を進めていく予定である。



【接木講習会の様子】

■いちご 親株研修会の開催

4月13日、14日に各いちご生産組合で親株研修会が開催された。いちごは「苗七分作」と言われるほど育苗が重要視されている作物である。充実した苗づくりが翌年の収穫量を大きく左右することから、皆真剣な面持ちで資料の確認などを行っていた。

農業普及課からは、今後の栽培管理において発生しやすい病害虫や作業のポイントについて情報提供し、育苗に遅れがないよう助言を行った。今後も安定していちごが生産されるよう、栽培管理の支援を継続して行う。



【研修会の様子】

■金ごま 生産開始前研修会の開催

4月27日にJAいび川揖斐営農経済センターで「金ごま」の生産に向けた研修会が行われた。実需者から国産ごまの動向について報告の後、農業普及課から栽培方法について説明を行った。

また、産地づくりのための生産組織立ち上げにつき、発起人から規約や事業計画の案が示された。参加者全員の承認が得られたことから、「揖斐金ごま生産部会」の設立が決定し、令和5年産の金ごまは部会として生産をスタートすることとなった。



【発起人説明】